

新丸山ダム建設DX 第2回実証実験

令和5年12月12日、新丸山ダム本体工事において、建設DXを活用した自動・自律施工システム構築に向けた実証実験を実施しました。今回の実験は、土砂の掘削から運搬、敷均し、締固めまでを自動的に複数の建設機械を連携させて行いました。これらの実証実験を通して、ダム本体建設での自動化・自立化システムの実用化を目指しています。

また、新丸山ダム工事事務所に新設されたDXルームを開設し、次世代型の事業管理を進めます。参加者：60人（中部地整職員30人、工事施工業者24人、報道関係者5社（6人））

【実証実験】複数の建設機械が連携しながら、一連の作業を自動で施工

無人バックホウが
自動で土砂掘削・積込み



現場内のダンプトラックは
自動走行で土砂運搬



統合監視室から
自動運転を遠隔指令



新丸山ダムDXルーム



複数画面による現場の監督や
現地立会い等を遠隔で確認で
きる設備を常設し、発注者の
職場環境の改善を促進する。

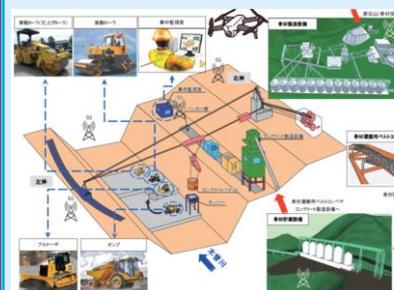
無人振動ローラが
自動で転圧



無人ブルドーザが
自動で敷均し



新丸山ダムが目指す自律型コンクリート打設システム



コンクリートに使用する骨材の
製造からコンクリート打設まで
の一連の工程を、集中監視室で
制御する自律型コンクリート打
設システムの導入を目指します。
これにより、建設現場の生産性
の向上を図るとともに、建設労
働者の負担軽減や安全性を向
上させ、魅力ある職場環境を
目指しています。